

池上地区まちおこしの会 あり方検討について

- 1 はじめに
- 2 池上のいま
- 3 会のこれまで
- 4 今後に向けた問いかけ
- 5 具体的なご提案



1 はじめに

- 池上地区まちおこしの会は、２０２２年で設立から２０年を迎えます。
- この２０年という期間において、私たちは一つ一つ活動を積み重ね、池上地区の課題解決や活性化に、さまざまな実績を残しました。
- 他方、会の外側に目を向けてみれば、この２０年とは、私たちの社会が大きく変化をしてきた時代であるとも言えます。
(ex.インターネットの普及、都市部の人口増加、少子高齢化、価値観の多様化 など)
- そして言うまでもなく、池上のまちや人もまた、大きく変化しています。
- これからの池上に私たちは何ができるのか。これまでの活動を総括しつつ、会のあり方について、皆さんで考えてみませんか？

2 池上のいま

人口・世帯は増えつつも高齢化

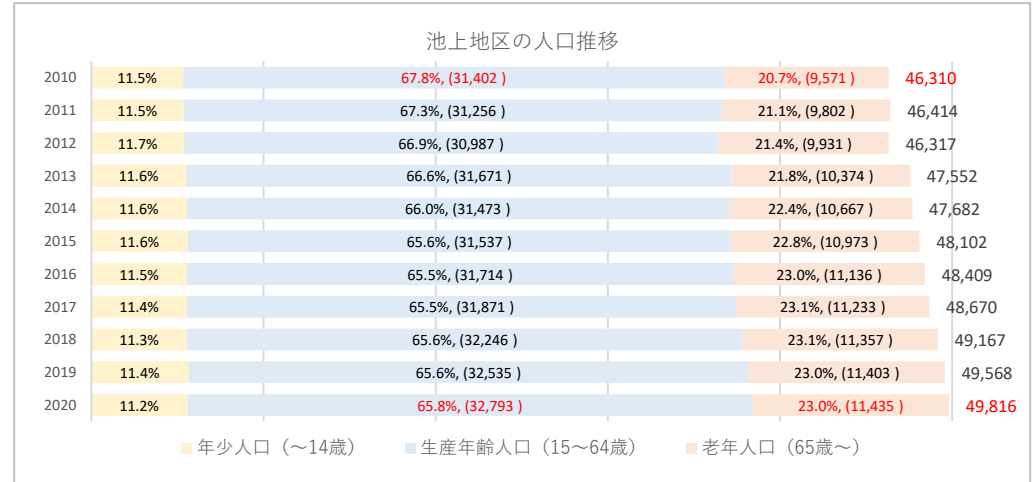
	生産年齢人口	老年人口
2010年	67.8%	20.7%
2020年	65.8%	23.0%

高齢化率は区内平均を上回る

	大田区	池上
2010年	20.6%	20.7%
2020年	22.6%	23.0%

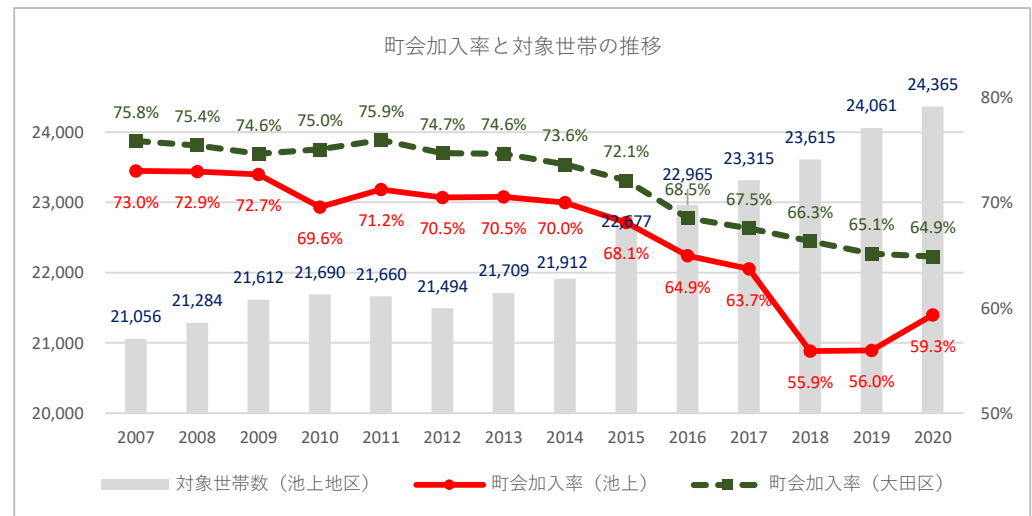
町会属性ではない世帯が増加

	町会加入率	加入世帯数
2010年	69.6%	15,088世帯
2020年	59.3%	14,454世帯



※ 池上三丁目、南馬込六丁目の全番地を含む。

出典：大田区住民基本台帳から作成



出典：大田区政ファイルから作成

2 池上のいま

- 様々な角度から、**まちづくり機運**が高まっている

まちづくりの動き@池上

2015年	・池上地区まちづくり協議会発足
2016年	・池上改造構想
2018年	・池上地区まちづくりガイドライン
2019年	・池上地区まちづくりグランドデザイン ・地域力を活かした公民連携によるまちづくりの推進に関する基本協定（大田区・東急） → 池上エリアリノベーションプロジェクト開始
2021年	・新池上駅舎が竣工（95年ぶり建替え）



- 多様な価値観・経験・能力**を持った人が集まりつつある

何かしらの思いを持った人たちが主体的に活動

→ 新たなまちのエネルギーを生みしている

ex. 本を介した地域交流（ブックスタジオ）
多世代ダンススタジオ（つながるwacca）
若手商店主会の復活（本門寺通り商店会）



3 会のこれまで

- 設立の経緯 -

- 池上地区においては、設立以前から町会・自治会が行政と連携して事業を開催していたが、当時の池上地区自治会連合会長が発起人となり、地域団体が連携してまちおこしを行うことを目的に会が設立された。
- 設立へ中心的に携わったまちおこしの会メンバーによれば、「設立当時、池上地区は、大田区の中心に位置するにもかかわらず、成長を続けている周辺地域に比べて栄えておらず、停滞した池上地区を盛り上げる必要があるという認識であった」とのことであり、この意見は設立に携わったメンバー間の共通認識であった。

2002年 3月 「池上地区まちおこしの会（仮称）」の発起人会を開催
→ 発起人（当時の連合会長）から池上地区自治会連合会会議で各自治会長に設立を呼びかけ

4-6月 「池上地区まちおこしの会」立ち上げ説明会等を開催
→ 各自治会長は管内住民への説明を実施。出張所は資料準備・既存団体への説明会案内を実施

7月 「池上地区まちおこしの会」結成大会を開催
→ 自治会・町会、各商店会、地域内の小中学校、同PTA、消防署、警察、清掃事務所、地元郵便局、老人クラブ、地域内病院、池上本門寺、大森生活学校、福祉施設で構成。

2003年 7月 第1回池上祭開催
→ 設立準備段階から携わっている会のメンバーには、「地域の文化を継承したい、地域が一体となって盛り上げられる活動をしたい」という考えがあり、会のメンバーの思いを実現できるような活動を各部会で検討したところ、まちおこしのイベントとして池上祭を行うことになった。



3 会のこれまで

↓ 「**地域団体の連携**」の受け皿として、**8部会**を立ち上げ、会がスタート。

2002年度	1 総務部会	自治会・町会の連絡・調整 / 各部会の連絡調整 ※各自治会・町会長、各部会長が所属
	2 企画部会	まちおこしのためのさまざまなイベントの企画
	3 商工部会	商店街の活性化 / まち工場等の産業の育成
	4 教育部会	はつらつと明るく学び、生きるまちづくり / 地域の教育力の活性化
	5 安全部会	防災訓練等地域の危機管理体制の整備 / 犯罪を未然に防ぐまちづくり
	6 福祉部会	福祉の視点からのまちづくり（ボランティア活動等） / 福祉・医療機関の横の連携
	7 文化部会	地域のさまざまな歴史・文化の確認と発展 / 地域に居住する各界著名人の発掘と交流
	8 環境部会	ごみのリサイクル等健全な社会環境づくり

出典：池上地区まちおこしの会の部会と役割（2002年4月12日）

↓ **組織のスリム化**を行う。

2003年度	組織の見直しを行い、 4部会1実行委員会 （企画・防災・防犯・環境・池上祭）となる。 また 事務局体制 が取られ、 地域の方が事務局長、出張所はその支援 を行うこととなる
--------	---

出典：総務省「地域協働体構想実施検証事業」ヒアリング用資料（2011年2月）

2007年度	各自治会・町会等の協力のもと、安全部会を立ち上げる（防災マップの作成・配布）。青パト隊の結成。
--------	---

↓ **会員（団体、個人、関係）の全てが、いずれかの部会に所属する体制**となる。

2008年度～	1 企画部会	まちおこしの会全体の調整・統括（活動方針の作成 / 部会間の調整 / 情報交換会 / 会員の拡大）
	2 防災部会	地震等による災害を減少する活動（池上地区の防災を考える会の開催 / 防災PRの実施）
	3 防犯部会	不審者等による被害から地域を守るための活動（防犯パトロール・青パトの支援 / 防犯PRの実施）
	4 環境部会	清掃などの美化活動や省エネ等の温暖化防止活動（地球温暖化防止活動の推進 / グリーンキャンペーン等）
	5 池上祭実行委員会	地域のお祭「池上祭」の企画・運営

出典：平成20年度総会資料（2008年3月）

2014年度	会則改正において 部会等所属の必須要件を廃止
--------	-------------------------------

4 今後に向けた問いかけ

① 今の池上地区における、まちおこしの会の位置づけとは。

まちおこしの会発起人代表 松原忠義（当時）

何故、このような呼びかけになったか。本門寺のお会式終了後、5年かけて五重塔完成。平野会長と本門寺訪問。町会、自治会、商店街が一緒になって動けないか。また、学校週5日制になり、地域の協力が今まで以上に必要。そのためには、まちづくりを一步進めた、まちおこしが必要。大田区も4つの行政区画が設けられる。

今までは、行政側からまちづくりが提示されてきたが、これからは、横の連携を取りながら地域の人の発案によるまちおこしを積極的に進めていきたい。町会長、青少対、商店街、学校関係者等31名の方にお集まりいただくことになった。

出典：まちおこしの会発起人会 要旨（2002年3月11日）

- 
- 20年前、地域を横串で繋ぐことができるのは自治会・町会しか無かった。
 - 町会ベースの組織が主体となり、輪を広げていくことが有効だった。
 - 世の中はさらに変化。新たな団体・個人が活躍し、まちの新陳代謝も進んだ。
 - 従来の会の位置づけでは、まちの主体をカバーし切れない。

4 今後に向けた問いかけ

【目的】

まちおこしの会は、池上地区における自分たちのまちが、**自分たちの力で**、**明るく楽しくいきいき**とした魅力あるまちとなることを**目的**とする。そのため、**会員の運営により**、まちおこし事業を推進するものとする。（会則第2条）



② シンプルに、まちおこしの会は**何を**目指しているのか。

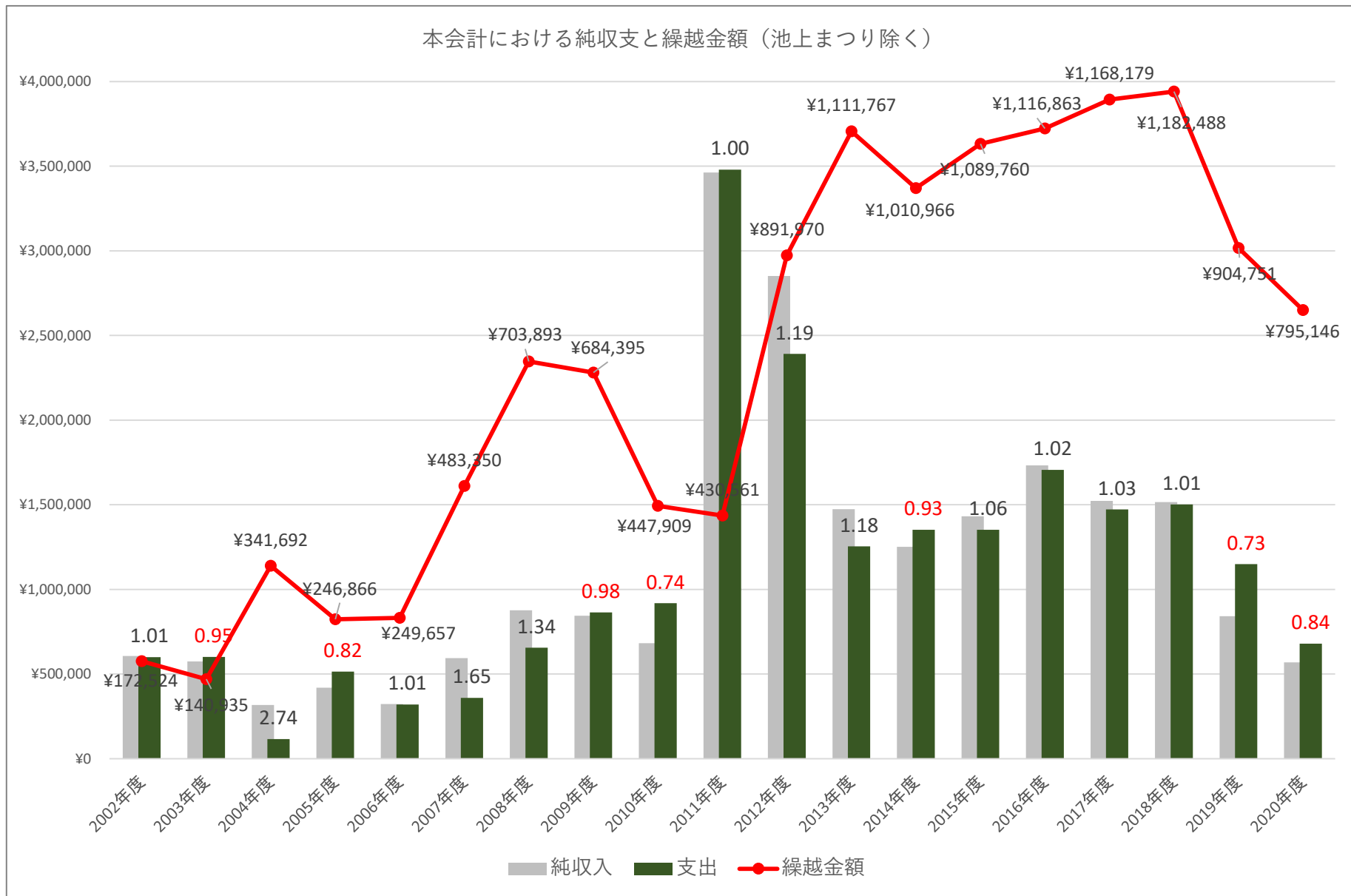
- 「明るく楽しくいきいきとした魅力あるまち」とは？
 - 間違いではない。しかし、**漠然としてゴールがわからない**。
 - ゴールを達成するために、**本当にやらなければいけないことは？**



③ 切実な問題として、現在、**会の運営をどのように**考えているのか。

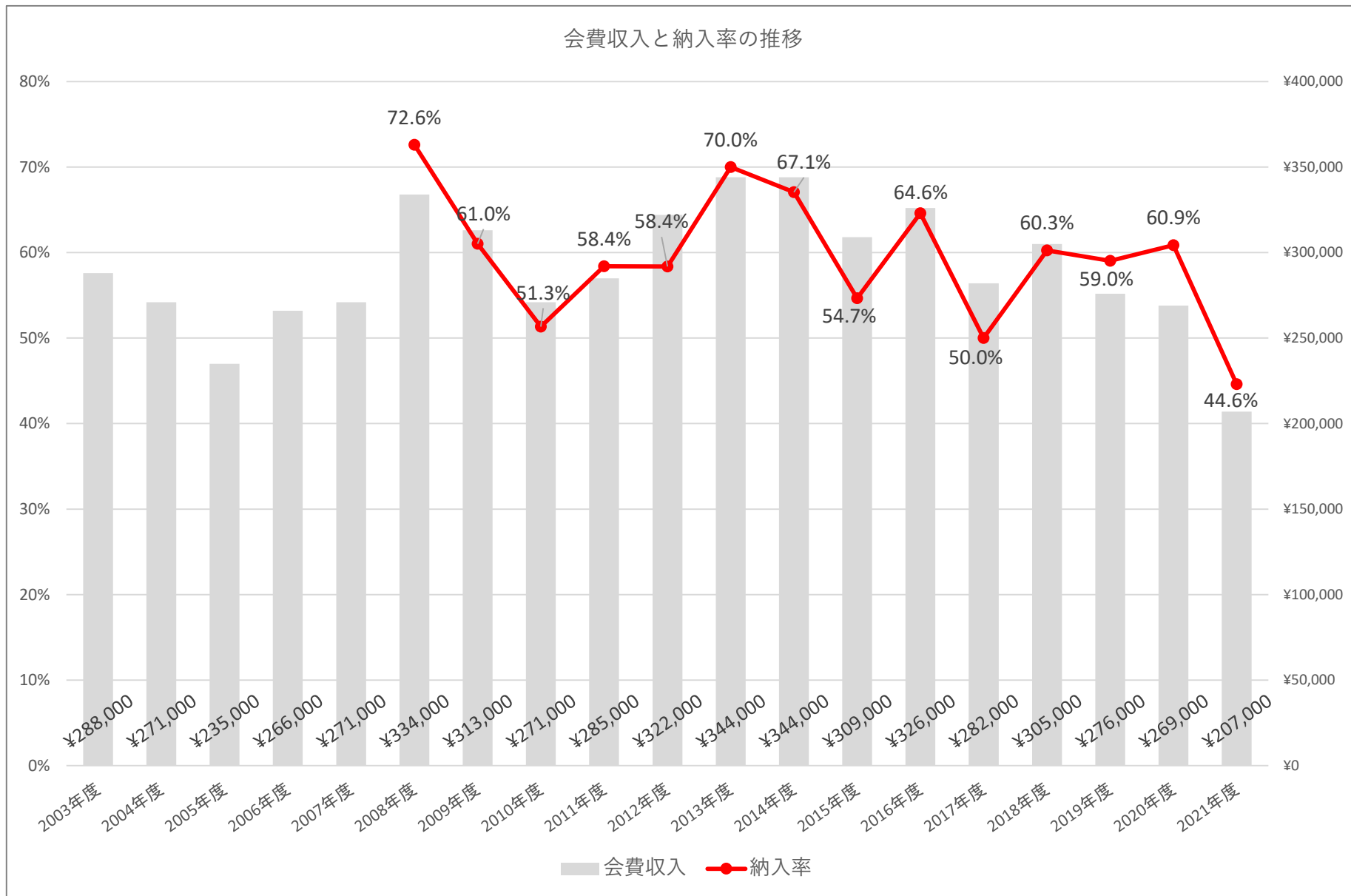
- 任意団体として「自分たちの力で」「会員の運営により」と言えるか？
 - **事業だけでなく、会の運営（事務）**に触れなければ実像は掴めない。
 - **会の継続性**を真剣に考えるが故、本当にこのままで良いのか？

4 今後に向けた問いかけ（参考）



※ 純収入は繰越金を除く。また、1未満は支出が収入を上回る。

4 今後に向けた問いかけ（参考）



5 具体的なご提案（その1）

外部のコーディネーターを交えた議論・ワークショップ等を通じ、以下の取り組みを進めてみませんか？

ステップ1：これまでの棚卸

- ① 「池上のいま」を知る
- ② 成果と課題の振り返り
- ③ 目的の再検討

概ね9月まで



ステップ2：会の整理・体系化

- ① 部会の見直し・最適化
- ② 事業の「選択と集中」

概ね10～12月まで

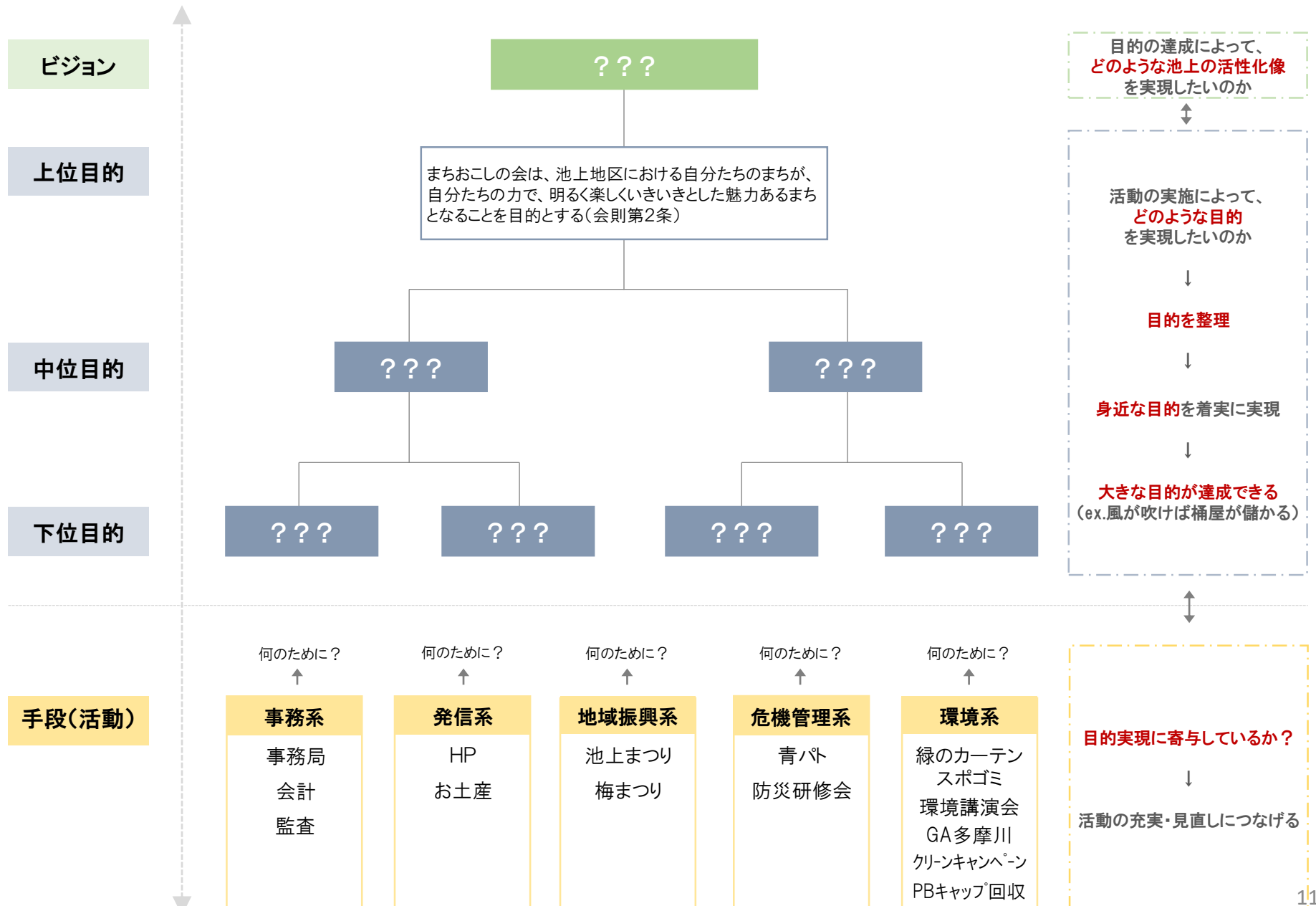


ステップ3：活動の充実

- ① 次年度に向け、事業をブラッシュアップ
(ex.池上まつりの再構築・新企画の検討など)

概ね翌年3月まで

5 具体的なご提案（在り方検討イメージ）



5 具体的なご提案（その2）

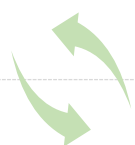
コミュニケーションの活性化と情報公開の推進によって、会員・非会員を問わず、会の活動・運営への参加機会を拡充していきませんか？

ステップ1：コミュニケーションの活性化

① 事務局の業務環境整備

（ex.パソコンの入替え、回線契約、メールアドレス取得、コミュニケーションツールの導入 など）

② 役員・会員へのICT活用サポート



通年

ステップ2：情報公開の推進

① 運営に関する各種資料の共有（会員向け）

② 活動実績に関する各種資料の収蔵・共有

（ex.写真データをweb上に保存し、一般公開）

③ SNSの活用とホームページの見直し

→ 既存事業者の見直しを含めて検討

→ 池上の事業者と連携し、ネットワーク拡大の呼び水とする。